

先輩職員からのメッセージ

社会文教部主事 K・Hさん(女性) 平成23年入局

(現在の私の仕事)

介護保険対策特別委員会、国立公園関係都市協議会の運営を担当しています。

介護保険制度について、制度の円滑な運営を推進するための要望などを議論する委員会を設置しており、提言を国へ提出しています。私は、会議資料や各市の意見をまとめた要望書の文案を作成しています。また、厚生労働省の審議会では、市長さんと厚生労働省の連絡調整を行い、市長さんが会議で発言する際に使う資料も作成しています。

国立公園関係都市協議会は、国立公園の保護・保全と適正な利用、自然と調和した地域づくりの実現のため、各国立公園の視察を行うとともに、国に対して要望書を提出しています。私は、資料や要望書の文案の作成や、会議の運営等の事務を行っています。

813の都市で抱える様々な問題を、地域の実情の違いを考えながら文章にまとめていくことが大きな仕事の一つですが、そのために制度の仕組みや実態等を日々勉強することも大切な仕事です。

(全国市長会事務局の魅力)

社会文教部に配属されてから、わずか1年3か月の短期間に、国や自治体、民間の専門職など様々な立場の現状や考えをうかがい知ることができ、全国市長会の要望が反映されながら制度が変わるさまを目の当たりにすることができました。要望の作成等を通じてその一端に携われることは、市長会事務局ならではの魅力だと思います。

職場としての魅力もたくさんあります。他職ではなかなかできないことだと思いますが、全国各市の市長さんとお話ししたり、視察にご一緒して交流することができます。また、市長会には各市の様々な分野で活躍していた職員が出向しており、全国に人脉を作ることができますし、各市の魅力、様々な分野における実情等を学ぶことができます。

事務局の職員は皆温厚で頼れる先輩ばかりです。休日には有志でスポーツを楽しむ等、活動的な方が多いです。仕事は、忙しい時とそうでない時のメリハリがあり、働きやすい職場だと思います。

<ある一日の仕事>

8:30 出勤

部内の動き(会議・打合せ・来客等)を確認し、メール、事務局内の事務連絡、国会審議情報等をチェックする。新聞記事を整理、関連情報を部内の職員に提供する。

9:00

厚生労働省社会保障審議会介護保険部会の傍聴のため、出掛ける。

9:30

市長さんを会場でお迎えし、会議で使用する資料をお渡しする。

10:00

会議開始。市長さん及び会議の様子をカメラで撮影した後、メモ取りを行う。

12:00

会議終了。市長さんをお見送りし、事務局へ戻る。

1:00

ホームページ掲載のため、市長さんの発言内容をまとめる。会議の経過概要を作成し、回覧する。

(退勤時)

翌日の業務内容、メールを確認する。

総務部主事 N・Sさん(男性) 平成22年入局

(現在の私の仕事)

私は総務部に配属することが決まった際、ある先輩から、「総務部は縁の下の力持ちだから、総務が機能しないと組織が倒れてしまう」と言われたことがあります。

どこの企業等にも総務部という部署はありますが、皆さんは総務部についてどういうイメージをお持ちでしょうか。「地味」な印象が強いのではないのでしょうか。

総務部の業務は、文書・会印管理や人事・労務、慶弔関係など幅広いものです。地味な仕事も多いですが、組織運営に不可欠な業務ばかりですので、まさに「縁の下の力持ち」を担っているといえます。

全国市長会の場合、市長の選挙情報や略歴を管理していることが特色として挙げられます。ほぼ毎週、全国のどこかで市長選挙が行われていますので、選挙日程や立候補者・当選者の略歴等を把握することは、普段の業務の中でも大きな比重を占めています。マスコミから最年少市長や最多当選市長についての問合せも多く、気の抜けない非常に重要な業務です。

(これまで勤務して良かったと思うこと)

全国市長会で働く魅力は、政策決定の現場を「裏側」から見られること、そこに自分が携われることです。

私が財政部に勤務していた平成25年度は「税制改正」が大きな課題で、特に固定資産税の現行制度の堅持等が大きな論点となっていました。

税制改正は、関係省庁によるボトムアップで決まる通常の政策決定とは異なり、与党税制調査会等の主導により議論が行われますので、直接、我々の主張を国会議員へ働きかける必要があります。

そこで、会長をはじめ関係役員市長から政府高官や国会議員等に対し要請活動を実施していただき、私も事務局の一員として同行しました。その際、政治家である市長と国会議員が、時に激しく意見を応酬している場面を目の当たりにし、目の前で政策が決まっていく現場、政治がダイナミックに動いていく現場に居合わせることができました。

こうした経験は、他所ではなかなかできない、全国市長会ならではのものだと思います。

<ある一日の仕事>

(出勤時)

新聞や市役所HPなどで、前日に告示された市長選挙の立候補者名等を調べるとともに、投開票が行われた選挙の結果を調べる。

(午前)

- 出勤時に調べた市長選挙情報を基に「理事・評議員合同会議」の資料作成や毎週発行している「週報」の原稿を作成
- 他団体からの後援・協賛依頼への対応や式典への電報を発信
- 今年度の職員の研修計画について、部内で打合せ

(午後)

- コピー機業者の方と機械の使用状況や今後の改善点などの打合せ
- 会長や事務総長が役職を務めている団体から、「書面表決」の依頼があったので、必要書類を整えて起案
- 「理事・評議員合同会議」(300人程度)の座席表を作成

(退勤時)

- 明日のスケジュールの確認を行い、懸念事項について上司と相談

行政部主事 H・Kさん(男性) 平成19年入局

(心がけていること)

「全国市長会の仕事は『政治半分』、『行政半分』である。」

この言葉は、私が採用された当時の全国市長会会長の言葉です。入局1年目で仕事の右も左もわからないときの言葉でしたが、8年目となった現在、この言葉の意味がだんだんとつかめるようになってきた感覚があります。

全国市長会には、市役所などでいうところの「窓口」や「現場」があるわけではありませんし、私たち職員は政治家であるわけでもありません。

しかしながら、私たち職員の日頃の業務は、国の政策の企画立案に関わるなど、市政運営に直接影響を及ぼしたり、市長の政治家としての信頼関係などにも大きく関わるような仕事をしています。

そのため、政治家であり、選挙で選ばれた行政のトップとしての市長の立場に立って、「政治」と「行政」の両面を意識しながら仕事を進めることを心がけています。

(これまでの勤務を通じて印象に残っている仕事)

私は、入局6年目のときに、初めての異動により行政部に移りました。最初に任された仕事が、国・都道府県から基礎自治体へ事務・権限を移譲することや義務付け・枠付けの見直し(規制緩和)を行う「地方分権改革」そのものの業務でした。

「地方分権改革」に関係する用語や法律の知識を全く知らない状況からのスタートだったので、異動した初日に、机や書棚に膨大な資料が積み上がっている光景を見て、絶句したことは未だに記憶に新しいです。

また、電話が頻繁に鳴り響き、誰が誰あてに電話してきているのか分かるくらいに関係府省等と丁々発止の議論をしていたことは、議論の仕方を学び、知識を定着させるのに役立ちました。

現在、行政部では3年目を迎えましたが、先輩からの助言や同僚からのサポートがなければ乗り切れない仕事ばかりでした。仕事を通じて、チームとしての結束力や一体感を実感できたことは大きな収穫でした。

<ある一日の仕事>

(出勤時)

- ・メール及びスケジュールの確認
- ・担当業務に関連する新聞記事等の情報収集
- ・業務内容に関する担当者同士での意見交換

(午前)

- ・他部署との打ち合わせ。分担している業務の進捗状況の確認及び他団体や関係省庁との調整に係る作戦の協議
- ・調査の集計。回答元に問い合わせたり、関連法令に目を通すなど、必要な情報収集及び資料作成
- ・定期開催している会議の準備
- ・来客対応

(午後)

- ・他部署との打ち合わせ。分担している業務の進捗状況を確認し、他団体や関係省庁との調整に係る作戦を練る。
- ・定期開催している会議の準備
- ・来客対応

(退勤時)

- ・翌朝の打ち合わせ資料の準備
- ・デスク周りの資料整理

横須賀市に出向中 K・Sさん(男性) 平成6年入局

(現在の私の仕事)

私は、平成25年度より全国市長会事務局から神奈川県横須賀市に出向し、市の現場で働いています。

横須賀市は神奈川県南東部の三浦半島に位置する都市で、東京湾と相模湾に面し、古くから基地の街として知られているところです。その横須賀市において、経済部農林水産課に配属され、地産地消の推進に関する仕事を担当しています。

具体的には、地場産農水産物の消費・流通の拡大を図るため、地産地消推進アクションプランの進行管理、市内開催イベント（よこすかさかな祭り、シーサイドマラソン、走水のりフェスタ、1万mプロムナードウォーク等）等への農業協同組合、漁業協同組合等の出店及び地場産農水産物の販売への協力を行っています。

また、子供の頃から地場産農産物の美味しさを知ってもらうことを目的に、市内小学校5・6年生を対象として、夏季及び冬季に農業体験を実施しています。

(これまでの勤務を通じて印象に残っていること)

今から15年前になりますが、中日友好協会（中国）の招待により、中華人民共和国成立50周年祝賀大会関連行事に、本会会長を団長とする第8次全国市長会代表日中友好訪問団の随員として参加したことです。

記念レセプションにおいては、日中友好親善に尽力された両国の著名人と懇親する機会があったり、天安門広場で世界中のVIPを招待して開催された50周年記念パレードも観覧することができました。20歳代であった私にとって、日中両国の歴史を肌で感じられる機会を得たことは、本当に光栄な経験であり、これまでの本会事務局勤務の中で大変印象に残っています。

<ある一日の仕事>

(出勤時)

庁内グループウェアで課内のスケジュール、メールを確認する。

(午前)

農業体験を本市と共催している三浦半島地区農業経営士会との会議資料を作成する。

(午後)

農業体験の準備として、開閉会式の会場レイアウト・原稿、名札、修了証、農業経営士向けのはがき、感想カードなどを作成する。

(退出時)

机上の書類を整理する。庁内グループウェアで翌日の課内のスケジュールを確認する。

全国市長会館副参事 M・Iさん(女性) 平成4年入局

(現在の私の仕事)

全国市長会から公益財団法人全国市長会館に出向し、全国市長会の機関誌「市政」の編集業務に携わっています。主に「市政」掲載記事の企画編集を行っています。

このうち「特集」や「市長座談会」では、都市自治体の抱える諸課題や先進的な事例を取り上げ記事にしています。

また、掲載記事のひとつ「市政ルポ」では、掲載する都市自治体に訪問し、市長さんに直接インタビューを行い、その内容を取りまとめ、各自治体における多様な取り組みなどについて紹介しています。

さらに、本誌を通じ様々な情報発信を行うため、都市自治体をめぐる環境の変化に即応した新しい掲載企画についての考案なども行っています。

(全国市長会に勤務して良かったと思うこと)

本会は、全国の市長さん方における唯一の連合組織です。国等の政策について全国の市長さんの声が反映できるよう、その活動を支えることが本会事務局の仕事です。全国の市長さん方の声は、様々な場面で日々の私たちの生活と密接に関係しており、本会の仕事を通じ、その一つ一つに携わっているということが目に見えて実感できます。

また、全国の都市の情報を得ることによって、それぞれの地域に興味がわきその良さを再発見することができます。日本全国を旅することがとても楽しくなるかもしれません。

<ある一日の仕事>

(出勤時)

- 本日の業務内容の確認

(午前)

- 「市政」掲載記事の校正・内容をチェックなど

(午後)

- 掲載記事の企画打合せ
- 情報収集のため、セミナーや講演会などに出席

(退出時)

- 本日の業務内容の確認(やり残しがないかなど)
- 翌日の業務について確認